

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	そらいろ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 20日		～ 令和7年 2月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和6年 1月 6日		～ 令和7年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その子がその子らしく成長していけるよう、子ども1人1人のペースに合わせた支援を、気持ちづくりから丁寧に段階的に行っている。	子どもたちの”やってみよう！”という気持ちをたっぷり膨らませてから活動に臨めるように、遊びの見せ方や活動の伝え方を工夫し、丁寧に知らせている。また、活動後に振り返りを行い、その日の子どもの姿や反省点・改善点を職員間で出し合い、子どもたちの成長や状況に合わせた活動を日々組むようしている。また、職員の声かけや対応の仕方、寄り添い方なども共有している。	子どもの発達や気持ちの変化、思いへの寄り添い方など分かりやすく見える化した独自の支援プログラムを作成し、職員間でしっかり共通理解を図る。また、事業所内研修だけでなく、外部の研修にも積極的に参加し、職員に伝達研修を行い個々のスキルを上げていく。
2	活動プログラム固定化しないよう工夫し、チームで立案を行っている。	月末に次の月の月案を作成し、季節ならではのあそびや、子どもたちの興味関心の高まっているあそびなどを取り入れ、活動が固定されないよう工夫している。リーダーを中心に職員間で話し合いを行いながら、意見やアドバイスを出し合い、立案を行っている。	実践検討等の研修や公開療育に積極的に参加し、職員1人1人の知識を深め、あそびや活動の引き出しをふくらませていく。また、今後も目の前の子ども1人1人の興味関心、課題に合わせた活動をチームで考えていく。
3	職員の資質向上を図るため、法人内でも定期的に研修を行い、外部研修等にも積極的に参加している。	平均して月に2回、職員全体での会議を行い、実践の振り返りやケース検討、施設内研修を行っている。また、外部研修や公開療育にも積極的に参加し、伝達研修を行うことで、職員全体で外部研修で学んだことを共有するようしている。	今後も定期的な施設内研修と積極的な外部研修への参加を行い、個々のスキル・資質の向上を図って良いチームづくりをしていく。また、第三者による外部評価の機会を設け、より良い実践にしていけるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会などの開催があまりできておらず、保護者同士やきょうだい同士が交流する機会を設けられていない。また、ご家族に対してペアレントトレーニング等の研修機会を設けられていない。	保護者会等に関しては、共働き家庭も多く、日程調整の難しさがある。かつ、保護者からのニーズも低いのを感じる。保護者向けの研修等の実施に関しては、職員のペアレントトレーニングに関する知識が充分ではないので、まずは職員のペアレントトレーニングに関する知識・理解を深める必要がある。	まずは職員のペアレントトレーニング等に関する知識・理解を深め、保護者向けの研修の計画を立てていく。親子参加の行事をもっと充実させていき、保護者のニーズに合わせて、保護者交流会などの開催も計画していく。
2	地域の子どものとの交流の機会があまり持っていない。	公園あそび等で、会った子どもと交流する機会がまれにあるが、地域のこども園や幼稚園との交流の機会はなかなか持っていない。互いのスケジュールや、目的・ねらい等を考慮すると、積極的に交流の場を設けることに躊躇ってしまう。	まずは、こども園・幼稚園と、今以上に連携し合い、信頼し合える関係性を構築していく。その上で、互いに交流の機会を設ける必要性やねらい等を考えながら、実施の検討をしていきたい。
3	STやOT、臨床心理士などの専門性のある職員の確保ができていない。	専門的な視点での発達状況などを職員が理解し支援に活かすことで、より良い支援に繋がりが、子どもの心身の成長に生かせることができるのではないかと考えるが、なかなか人員確保が難しい。	専門分野の人材が確保できるよう、働きかけを行っていく。